

概要版

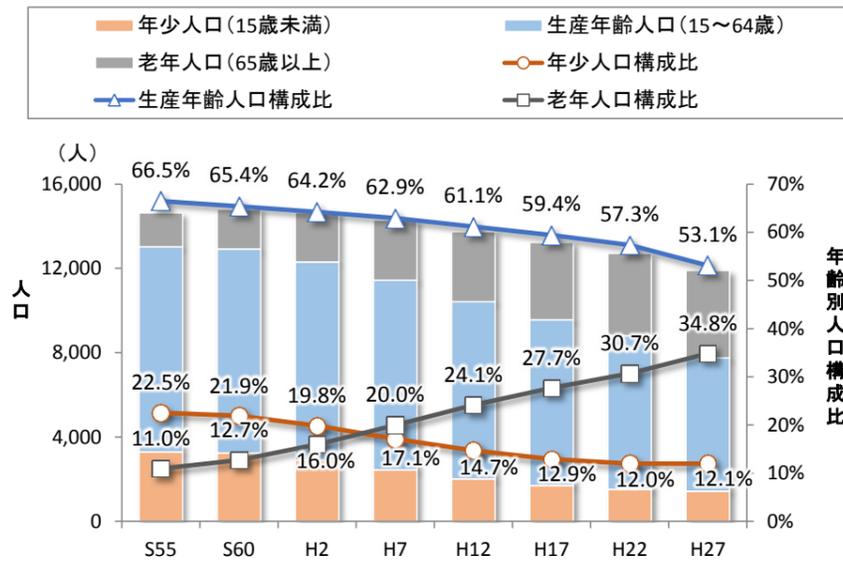
氷川町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略

1. 氷川町の人口の現状

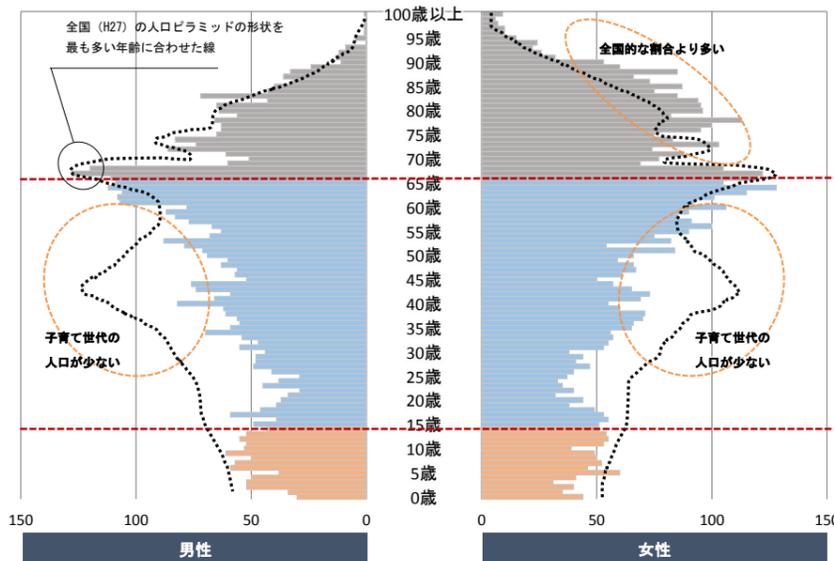
氷川町の総人口は減少傾向にあり、平成27年の総人口を昭和55年と比較すると約20%減となっている。少子高齢化による出生数の減少に加え、特に若年層の町外への転出による社会減が本町の課題となっている。

総人口と年齢3区分人口及び構成比

- ▶ 年少人口、生産年齢人口は減少傾向する一方、老年人口は増加傾向。
- ▶ 年齢構成比は、平成7年に年少人口と老年人口が逆転して以降、老年人口比率は上昇。少子高齢化が加速している。



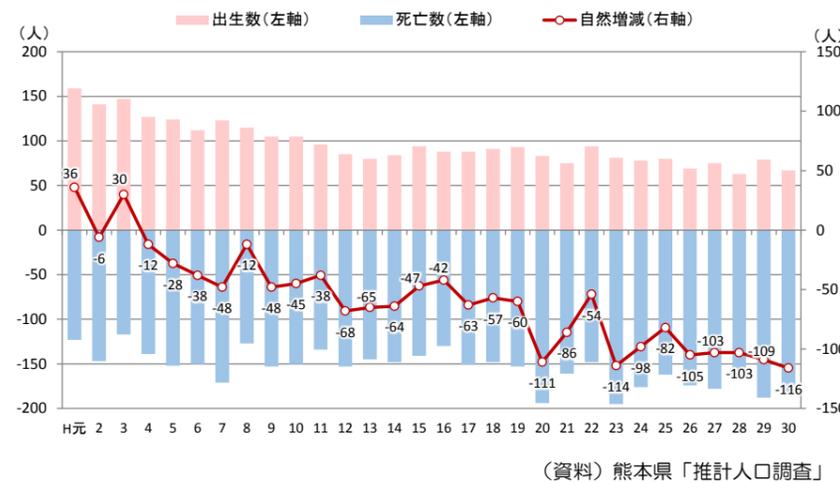
(資料) 総務省「国勢調査(平成27年)」



(資料) 総務省「国勢調査(平成27年)」

自然増減

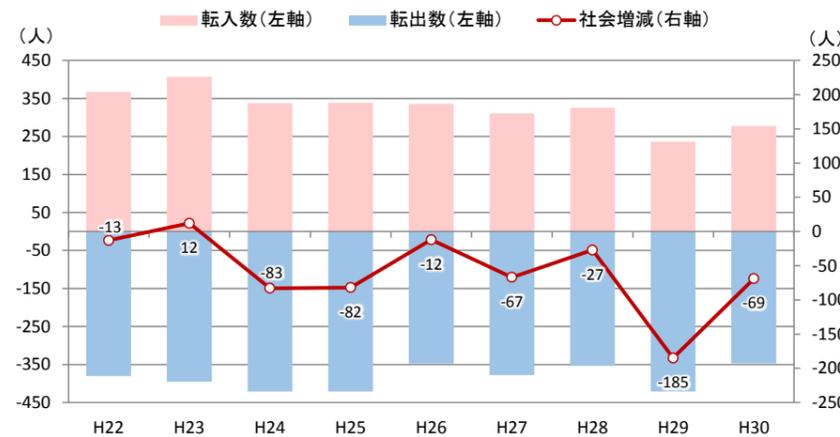
- ▶ 平成4年に死亡数が出生数を上回る「自然減」に転じて以降、自然減の状態が続いている。
- ▶ 少子高齢化により、自然増への転換は困難な状況。



(資料) 熊本県「推計人口調査」

社会増減

- ▶ 転出数が転入数を上回る「社会減」の状態が続いている。
- ▶ 特に、若年層(15~24歳)の転出が目立ち、県内の主な転出先としては八代市、熊本市、宇城市となっている。



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

2. 氷川町の人口の将来展望

このまま何も対策を講じなければ

2060年には人口4,933人まで減少

(国立社会保障・人口問題研究所推計ツールによる推計値)

目指すべき将来展望

2060年に人口7,000人を目指します

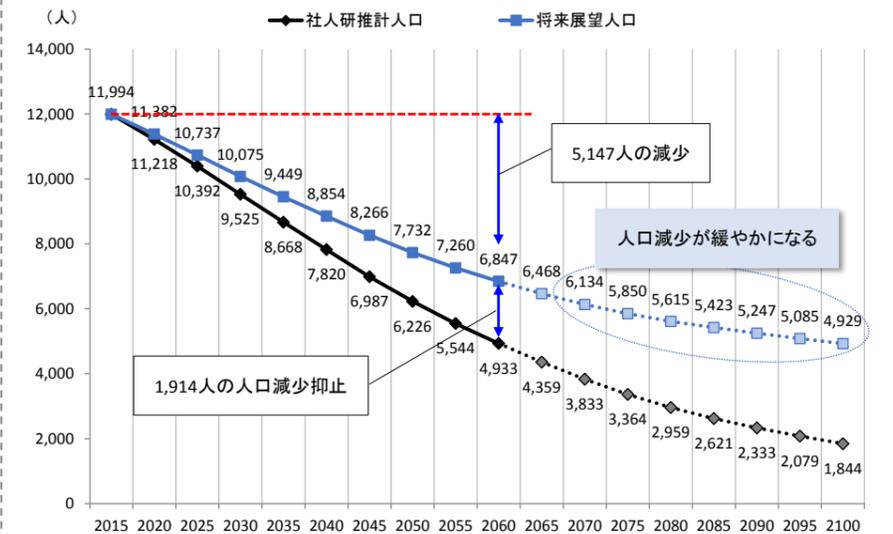
※対策が進めば、2070年頃から5,000人から6,000人前後で安定予測

「年少人口」は15%程度、「生産年齢人口」は50%程度、「老年人口」は35%程度のバランスを保つことを目標とし、人口減少数を緩やかにさせ、長期的には安定を目指す。

実現のためには…

⇒合計特殊出生率の上昇と社会移動(転出超過減、転入超過増)

- 合計特殊出生率 1.51(2015年) ⇒ 1.80(2030年)
(出生率) 1.80(2030年) ⇒ 2.07(2060年)
- 社会移動 2040年まで社会移動人口を転出超過減、転入超過増
2040年以降も転出超過減、転入超過増を継続



(資料) 将来推計人口のワークシートを活用し、独自にシミュレーションを行い作成

※2045年以降は自然動態・社会動態の推計率をそのまま利用

1. 氷川町の目指すべき姿と重点項目

町の将来像

小さなまちで、大きな幸せを感じる
田園都市・氷川

重点項目

重点項目1

1次産業の復活

基幹産業である農業の強化と2次、3次産業への好影響の波及を目指します。

重点項目2

ベッドタウンとしての環境整備

若い世代や子育て世代が住みやすい、住みたいと感じるまちづくりに取り組みます。

重点項目3

学び舎として学生が訪れる氷川町

町全体を学びのフィールドとして町内外の学生に提供し、人材育成・情報交流を図ります。

基本目標

1. 地域経済の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち

数値目標

農業者総所得額：1,338百万円
生産年齢人口維持数：5,000人

3. 地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち

数値目標

観光入込客数：90万人
宿泊客数：3.9万人
観光消費額：2,350百万円

2. 結婚～子育ての場として選ばれるまち

数値目標

合計特殊出生率：1.83
20～49歳の転出超過数：3人

4. 誰もがくらしやすく心豊かに過ごせるまち

数値目標

住宅リフォーム助成件数：50件
福祉タクシー利用件数：300件
交通事故発生件数：15件以下

2. 具体的な施策

1. 地域経済の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち

地域産業が強化され、魅力的な雇用、安定した生活が保障されることで、若い世代が地域に留まり、強固な地域産業の形成や移住定住が促進することを目指します。

ア) 元気な地域産業の育成

- ①戦略的な情報発信による新たな販路の開拓
- ②地域産業の多角的展開

イ) 持続可能な地域産業の育成

- ①持続可能な農業体制の確立
- ②活力ある商業環境の創出

2. 結婚～子育ての場として選ばれるまち

結婚、妊娠、出産、子育てを町ぐるみで応援します。自然豊かな環境での子育て等、市街地とは異なる生活環境のメリットをPRすることで、くらしの場として選ばれる町を目指します。

ア) 安心して産み育てられる子育て支援

- ①子育てに係る経済的サポート
- ②妊産婦サポート
- ③仕事と子育ての両立サポート
- ④子育て支援に係る相談・情報等サポート

イ) 地域と連携した子育て環境ときめ細やかな学習支援

- ①質の高い学習環境づくり
- ②地域とともにある学校づくり
- ③学校教育相談サポート

ウ) 結婚希望者への結婚応援

- ①結婚希望者への情報サポート

3. 地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち

氷川町の資源を最大限活用したイベント開催や、学びの場としての学生との交流、町の魅力発信などにより、新たな人の流れ、滞留を構築し、移住定住が促進することを目指します。

ア) 催し開催による交流促進

- ①地域資源を活用した交流人口の増加

イ) 魅力発信による移住定住促進

- ①日本一学生が訪れたいまちづくりによる移住定住の促進
- ②情報発信による移住定住の促進
- ③広域連携による移住定住の促進
- ④ツーリズム事業による交流人口の拡大

4. 誰もがくらしやすく心豊かに過ごせるまち

氷川町にくらし、周辺市で働くといった町の立地特性を活かした新たなライフスタイルの形成に取り組みます。また、町の抱える課題に住民、行政など多様な機関が連携し知恵と力を出し合いながら、互いに助け合う町を目指します。

ア) 住宅整備・利活用の促進

- ①住宅希望者への居住地供給支援

イ) 安全・安心・快適な生活環境の創出

- ①交通弱者への充実した生活サポート
- ②住民自治によるまちづくりへの経済的サポート
- ③各種検診の経済的サポート
- ④高齢者の社会参加と自立支援

ウ) 地域防災の強化

- ①防災・減災活動への体制強化・施設設備の充実

3. 総合戦略の効果的な推進

本計画は、高い実効性と改善する仕組みを確立することが必要であるため、重要業績評価指標（KPI）により施策の効果を検証し、PDCAサイクルにより継続的にプロセスを改善しながら運営します。

【推進組織】

組織名	構成員
氷川町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議	住民、産業界、行政機関、教育機関、金融機関等
氷川町まち・ひと・しごと創生本部	町長、副町長、教育長、課長クラス職員
氷川町未来まちづくり政策研究会	副町長、町職員

